山梨県韮崎市

枇杷塚遺跡

ＪＡ梨北藤井ＳＳ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

山梨県韮崎市

枇杷塚遺跡

ＪＡ梨北藤井ＳＳ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会

序　　文

韮崎市ではこれまでに県営圃場整備等の公共事業に係り多くの遺跡が発掘調査され貴重な文化財が発見されており、近年では公共事業ばかりでなく民間の開発にともなう調査も増加しつつあります。この度発刊された本報告書は、このように埋蔵文化財発掘調査件数の増加するなか、ＪＡ梨北藤井ＳＳ建設にともなって平成７年度に発掘調査された、枇杷塚遺跡の報告であります。

市立北東小学校建設にともない平成元年～２年に実施された宮ノ前遺跡の調査では奈良・平安時代を中心として400軒あまりの住居跡が発見されていますが、古墳時代の住居等の遺構は確認されませんでした。しかし宮ノ前遺跡から南700ｍにある文化ホール駐車場にのこされている後期古墳の存在は、当該時期の集落が近くに埋もれている可能性を示しており、事実本遺跡をはじめとして平成７年度に調査された坂井堂ノ前遺跡・後田第２遺跡からは古墳時代中期～後期の住居址などが確認されました。これまでは古墳時代後期の遺跡は調査例がなかったのですが、このことは縄文時代から断続的にではありますが、時代をおって人々がこの地に生活していた証拠であり地域の歴史を解明する重要な発見と言えましょう。本遺跡の住居址からは土師器が出土しており、生活の痕跡が窺えるものとなっております。遺構や遺物の詳細は報告文に譲りますが、それらは当時の生活や文化を知る上で貴重であり、文化財として永く後世に伝えて行きたいと思います。本報告書が我々の先人の生活と歴史をときあかすための手助けになればと願っております。

最後に、遺跡の発掘調査並びに報告書作成に伴い、多大なる御理解と御協力を賜った関係諸機関及び関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成８年３月31日

韮崎市遺跡調査会

会　長　秋山幸一

韮崎市教育委員会

教育長　志村良典

例　　言

1　本書は、山梨県韮崎市藤井町南下条字枇杷塚1399－１番地に所在した枇杷塚遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、ＪＡ梨北藤井ＳＳ建設に係り行われた。

3　遺跡の名称は、小字名を用いた。

4　発掘調査は、梨北農業協同組合から委託を受け、韮崎市遺跡調査会が実施した。調査組織は別に示すとおりである。

5　航空写真測量は株式会社スカイサーベイに委託した。

6　整理作業及び報告書作成にかかわる業務は、韮崎市遺跡調査会が実施した。

7　凡　　例

①　遺構の番号は発掘調査現場において付けたものである。

②　縮尺は各挿図ごとに示した。

③　遺構断面図の水糸標高（ｍ）は数字で示した。

④　挿図断面図の　は石をあらわす。

⑤　写真図版中遺物に付けられた番号は、実測図の番号と対応する。

8　発掘調査及び報告書作成に当たっては、多くの方々から御指導・御協力・御鞭撻をいただいた。一々御芳名を上げることは避けるが、厚く御礼を申し上げる次第である。

9　発掘調査、整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

調　査　組　織

1　調査主体　　韮崎市遺跡調査会

2　調査担当　　山下孝司（韮崎市教育委員会社会教育課）

3　調査参加者

青山みち枝・秋山東・石原ひろみ・小野初美・深沢真知子・功刀まゆみ・清水由美子・三井福江

4　事 務 局（韮崎市教育委員会社会教育課）

教育長　志村良典、課長　深谷　卓、課長補佐　深沢義文、係長　内藤晴人、野口文香

目　　次

序　　文
例　　言
目　　次
挿 図 目 次
写真図版目次

Ⅰ　発掘調査の経過と概要 …… 1

1　発掘調査にいたる経緯
2　発掘調査の概要

Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 1

1　遺跡の立地
2　周辺の遺跡

Ⅲ　遺跡の地相概観 …… 4

Ⅳ　遺　　構 …… 5

Ⅴ　遺　　物 …… 8

Ⅵ　ま と め …… 14

写 真 図 版

挿　図　目　次

第１図　枇杷塚遺跡①と周辺遺跡 …… 2

第２図　枇杷塚遺跡位置図 …… 3

第３図　遺跡調査区域図 …… 4

第４図　遺跡全体図 …… 5

第５図　１号住居址平・断面図 …… 6

第６図　２号住居址平・断面図 …… 6

第７図　３号竪穴平・断面図 …… 7

第８図　１号Pit平・断面図 …… 7

第９図　１号土坑平・断面図 …… 7

第10図　１号住居址遺物出土状況 …… 9

第11図　１号住居址出土遺物 …… 11

第12図　１号住居址出土遺物 …… 12

第13図　１号住居址出土遺物 …… 13

第14図　２号住居址出土遺物 …… 14

第15図　１号Pit出土遺物 …… 14

写 真 図 版 目 次

図版１　遺跡近景、作業風景

図版２　発掘風景、１号住居址

図版３　２号住居址、３号竪穴

図版４　１号Pit、１号土坑

図版５　１号住居址出土遺物

図版６　１号住居址出土遺物、２号住居址出土遺物、１号Pit出土遺物

Ⅰ　発掘調査の経緯と概要

1　発掘調査にいたる経緯

平成７年４月、ＪＡ山梨経済事業連より、韮崎市藤井町南下条字枇杷塚1399－１番地の土地に、ＪＡ梨北藤井ＳＳ新築の事業計画が出され、埋蔵文化財に関する照会があった。当該地域は下横屋遺跡の東方250ｍにあり遺跡の存在が予想されたため、本市教育委員会立ち会いで遺跡の有無確認を実施したところ土師器破片が出土した。その結果、県教育委員会学術文化課の指導を受け本市教育委員会とＪＡ山梨経済事業連側で協議を行い、遺跡名を枇杷塚遺跡、調査主体を韮崎市遺跡調査会として、造成工事に先立って建設予定地内の約130㎡を対象として発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

2　発掘調査の概要

発掘調査期間　　平成７年７月24日～８月11日

調査は重機により基本的に遺物出土確認面まで排土を行い、地形等を考慮し測量の基準として、任意に５ｍ間隔の方眼を設定し、鋤簾等を用い精査を行い、遺構確認後掘り下げを行った。北側に広がる水田の影響で、時期的に遺跡周辺の水位が高く、現場には水が常に湧き出しており、調査区域内のまわりに水抜きの溝を掘り、24時間ポンプアップをして発掘を実施した。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　遺跡の立地

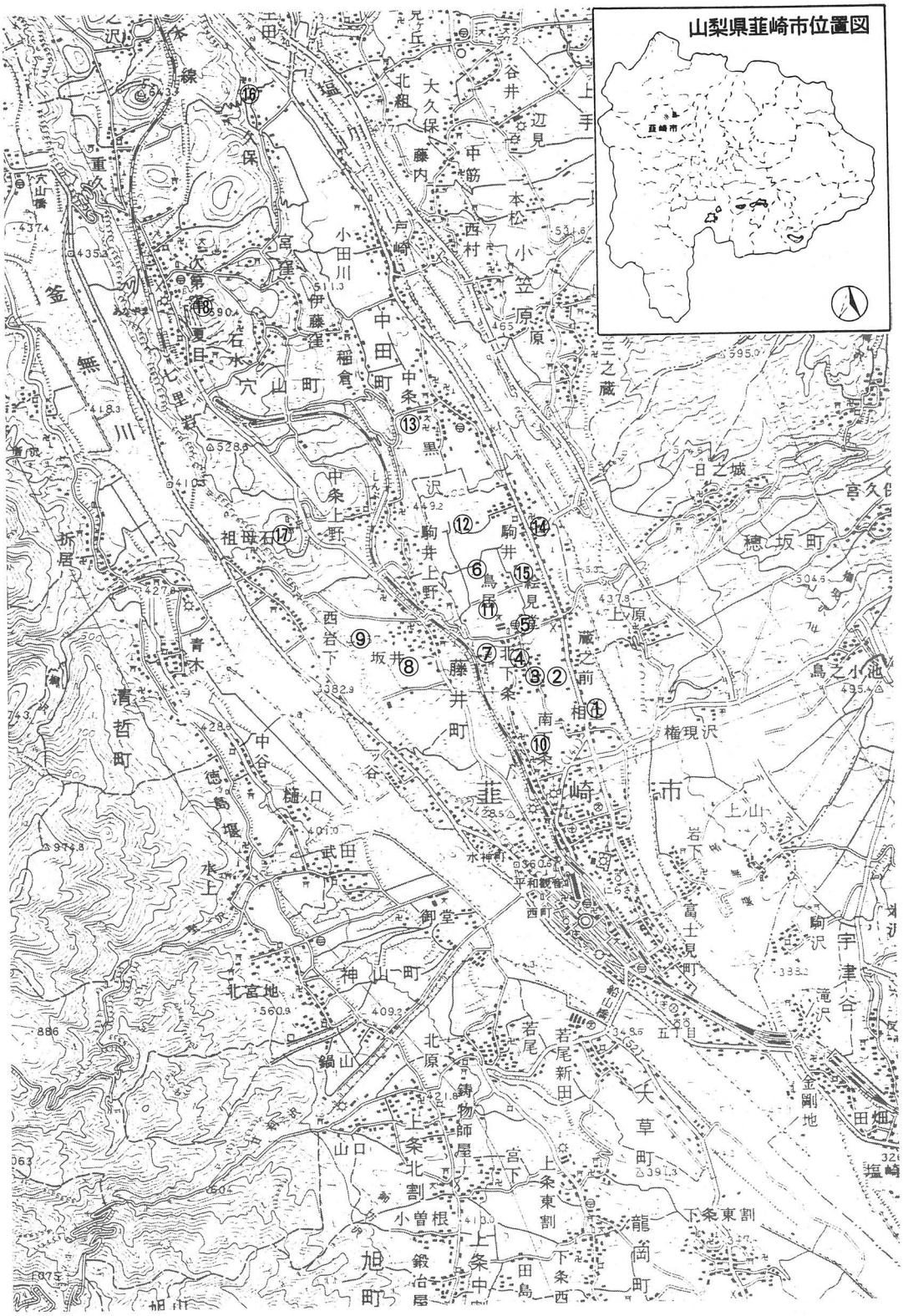
枇杷塚遺跡は、山梨県韮崎市藤井町南下条字枇杷塚地内に所在した。

韮崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・塩川により、地形的にほぼ山地・台地・平地の三地域に分けられる。

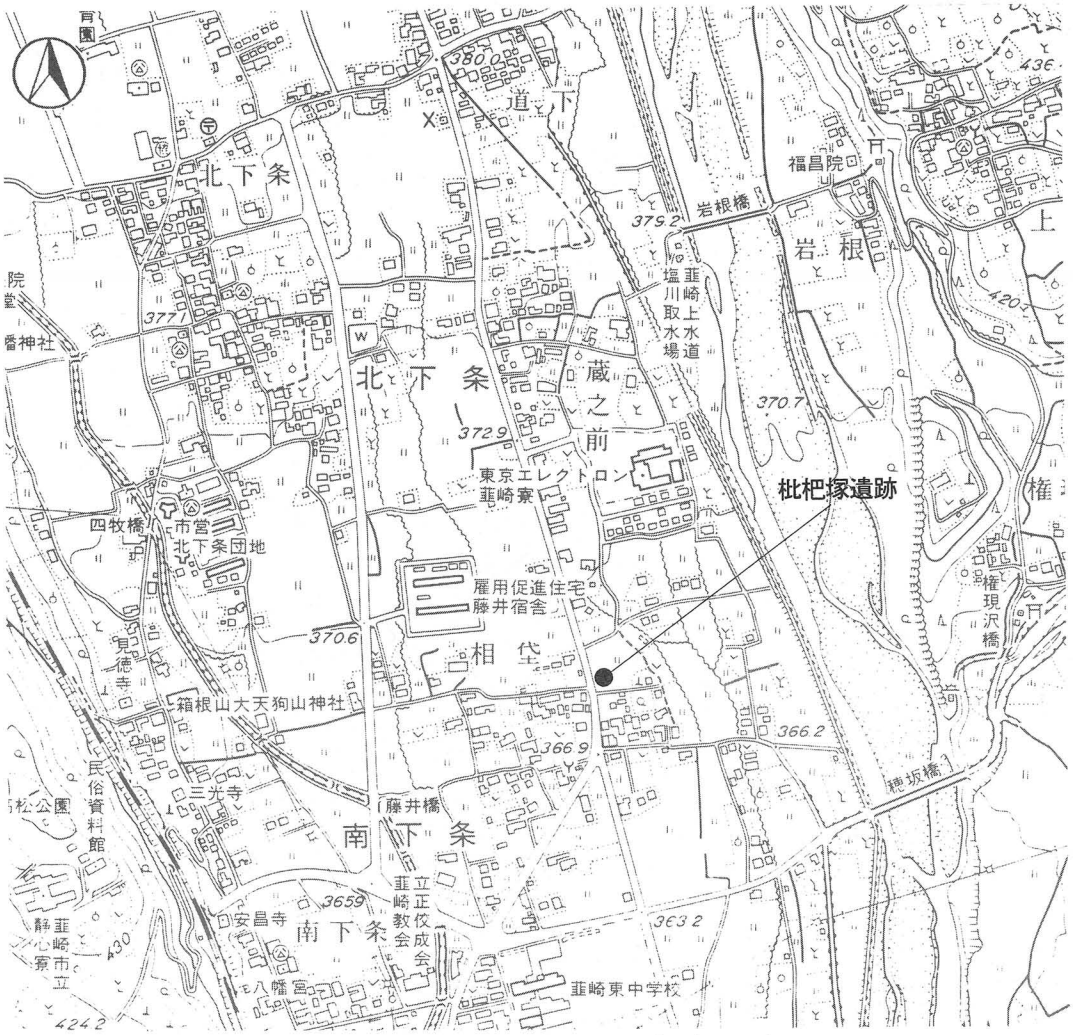
枇杷塚遺跡の所在した塩川右岸の氾濫原は、塩川の浸食によって造られた茅ケ岳山麓の断崖と、七里岩台地東側の片山とに挟まれた低地性の平地となっている。この平地は通称藤井平と呼ばれ、地内を貫流する黒沢川・藤井堰により水利がよく、肥沃で豊かな水田地帯が広がっている。また、『甲斐国志』には「穴山ヨリ南小田川、駒井、坂井、中條、下條、韮崎等ノ数村ヲ里人藤井ノ庄五千石ト云」と記載があり、古くから穀倉地帯であったことが窺える。当該地帯は一見平坦地の様相を呈してはいるが、地形を観察してみると、度重なる氾濫によって自然堤防状の微高地が所々に発達していることがわかる。藤井平は、このような微高地上に遺跡が点在しており、枇杷塚遺跡は標高約367.6ｍの水田下に発見された。

2　周辺の遺跡

枇杷塚遺跡の周辺には、市立北東小学校建設にともない平成元年～２年に調査され、奈良・平安時代を中心に400軒あまりの竪穴住居址が発見された宮ノ前遺跡⑥をはじめとして、数多くの遺跡が発掘調査されている。下横屋遺跡②は弥生時代後期の集落の一部であり、その東に

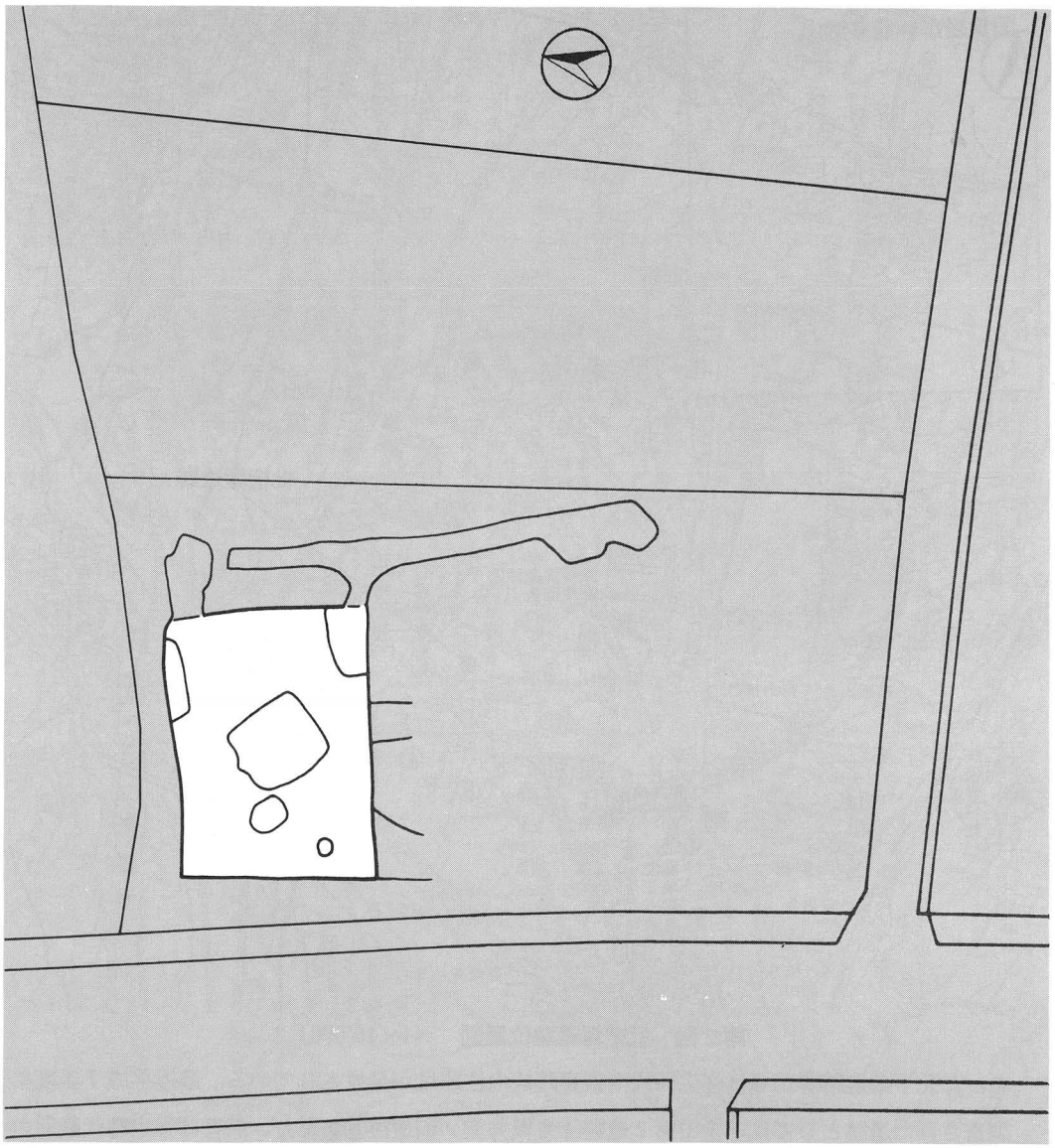


第１図　枇杷塚遺跡①と周辺遺跡　（1／50,000）



第2図　枇杷塚遺跡位置図　（1／10,000）

あった北下条遺跡③からは弥生時代や奈良時代の住居址が発見されている。最近平成7年度に調査された遺跡としては、後田第2遺跡④や坂井堂ノ前遺跡⑤があり、前者は弥生時代後期の住居址6軒、古墳時代後期の住居址6軒と土坑・溝が発見されており、後者からは古墳時代後期の住居址2軒、奈良時代の住居址2軒などが発見されている。これら古墳時代後期の遺跡との関連を窺わせる古墳が近くには存在しており⑦、地元では「火の雨塚」と呼ばれ、市文化ホール駐車場内に保存されているが、現状では墳丘の土は失われ石室の石が一部残るのみである。古墳時代前期では、県内でも有数の坂井南遺跡⑧がある。99軒の竪穴住居址と12基の方形周溝墓が発見されており、出土遺物も豊富であり、当該時期の考古学研究に良好な資料を提供している。坂井南遺跡の北には、戦前から戦後にかけて志村滝蔵氏（故人）の個人的努力によって掘られた縄文時代を主体とした著名な坂井遺跡⑨がある。このほか藤井平では、縄文時代中期初頭の焼けた人骨が埋葬された土壙が発見された山影遺跡⑩、縄文時代後期の有脚立体中空土偶が出土した後田遺跡⑪、奈良時代の寺（仏堂）が発見され瓦塔や鬼瓦の破片が出土した宮ノ



第３図　遺跡調査区域図　（1／400）

前第２遺跡⑫、縄文・弥生・奈良・平安時代の中田小学校遺跡⑬、奈良・平安時代の駒井遺跡⑭、県内ではじめて漆紙文書の出土した宮ノ前第３遺跡⑮、奈良・平安時代の上本田遺跡⑯などが調査されている。時代は下るが、国指定史跡の新府城⑰と能見城⑱は、全国的にも有名な中世城郭となっている。

Ⅲ　遺跡の地相概観

枇杷塚遺跡は、塩川右岸氾濫原の微高地上に立地する。位置的には相垈集落の北側にあたり、下横屋遺跡（現雇用促進住宅サンコーポラス藤井）から東へ250ｍ程離れている。遺跡は国道141号線端にあり、東側の塩川にかけては新興住宅地となっている。

Ⅳ 遺　　構

調査の結果、遺構は、竪穴住居址２軒、竪穴１基、土坑２基が発見された。（第４図参照）

＜１号住居址＞　（第５図）

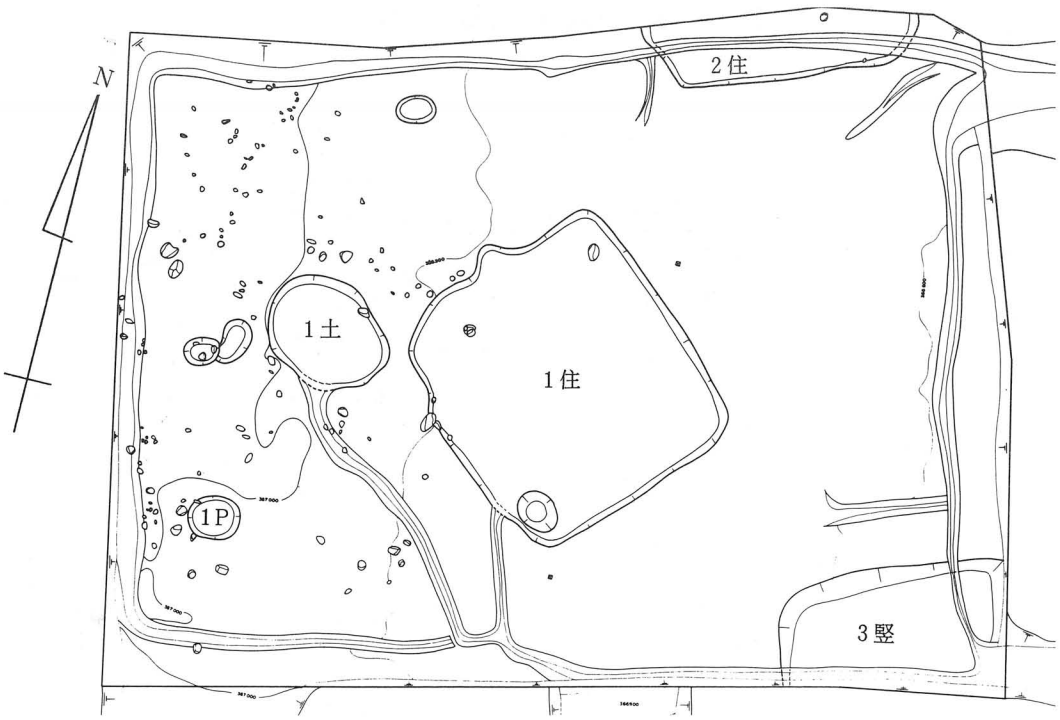
調査区域中央に位置する。試掘に際して当たった住居址である。平面形は隅円長方形で、長辺4.5ｍ、短辺４ｍの規模がある。遺構確認面から床面までの深さは15㎝前後で、壁はやや外傾しながら立ち上がる。柱穴や周溝はなく、カマドも検出されなかった。南隅に深さ12㎝前後、50㎝×70㎝の大きさの卵形の穴があり、そこから高坏などが出土している。

＜２号住居址＞　（第６図）

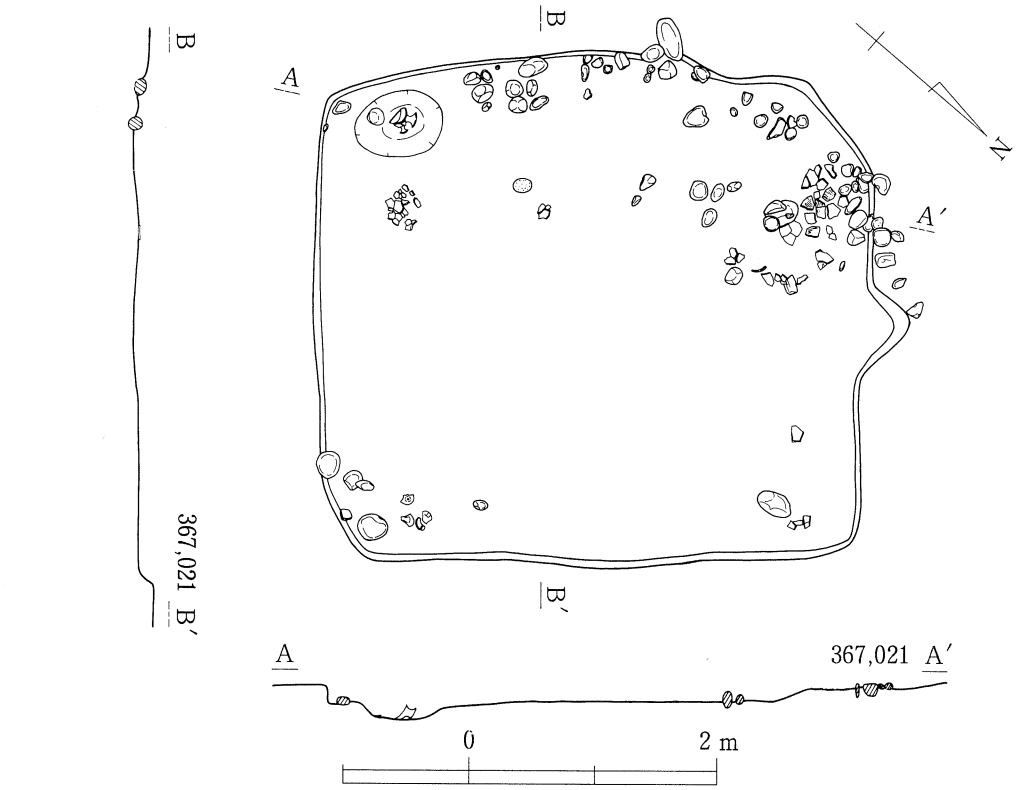
調査区域北東端に位置する。暗褐色土の落ち込みを確認し掘り下げる。落ち込みは北方調査区域外へ続いており、完掘できなかった。全体の形と規模はわからないが、底面が堅く床面らしかったので住居址と判断した。発掘した部分の東西方向で約４ｍある。遺構確認面から床面までの深さは10㎝前後で、壁はやや外傾しながら立ち上がる。西壁際に坏が出土している。

＜３号竪穴＞　（第７図）

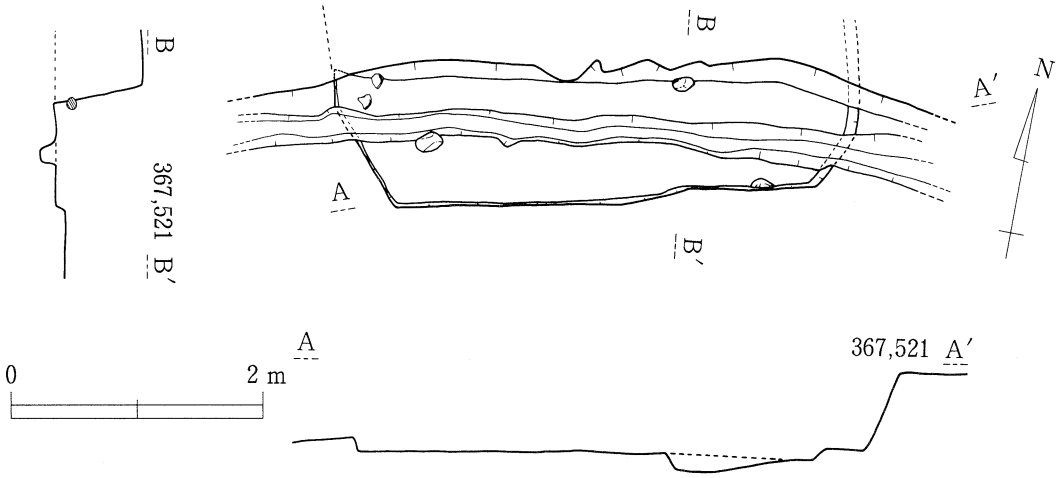
調査区域南東端に位置する。黒褐色土の落ち込みを確認し掘り下げる。落ち込みは東・南方調査区域外へ続いており、完掘はできなかった。全体の形と規模はわからない。ここは特に水が出ており掘り下げていくとグチャグチャで、どんな遺構なのか判然とせず竪穴とした。遺構確認面から底までの深さは25㎝前後で、壁は外傾しながら立ち上がる。遺物の出土はほとんどない。



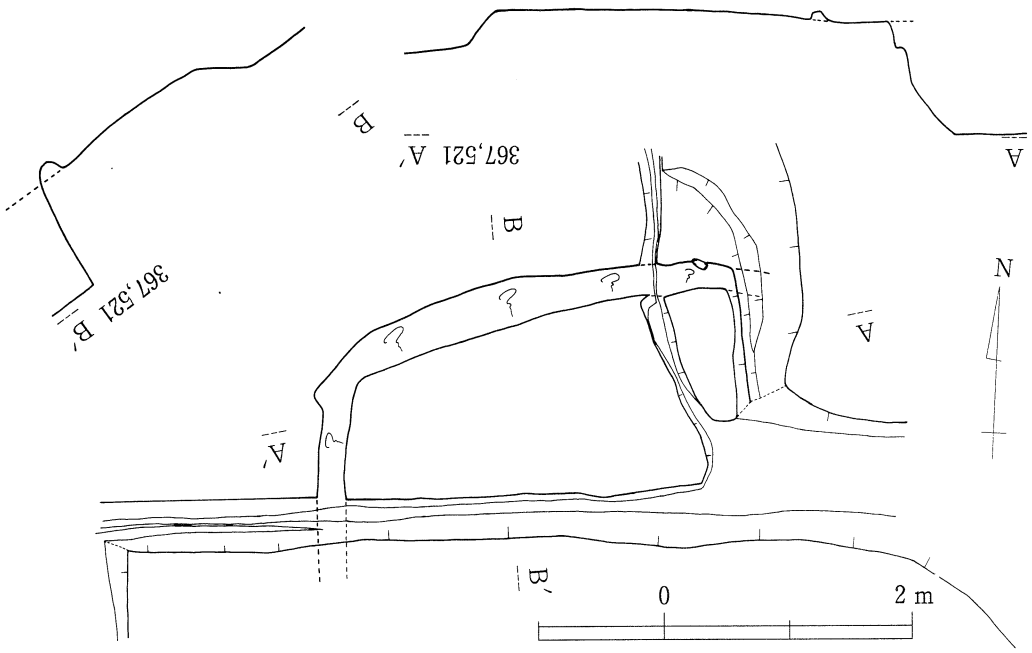
第４図　遺跡全体図　（1／120）



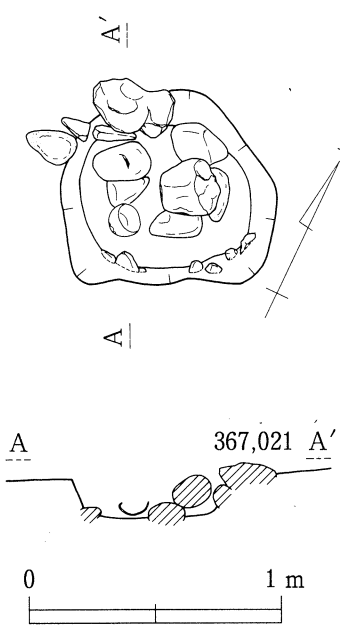
第５図　１号住居址平・断面図　（1／60）



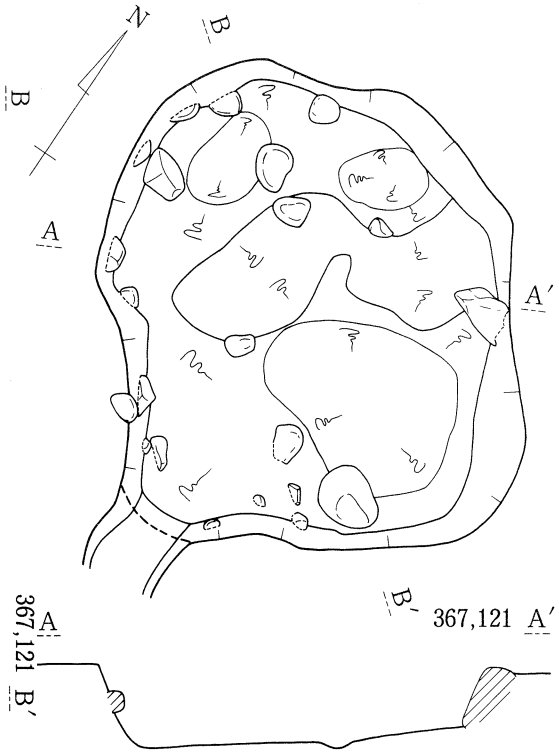
第６図　２号住居址平・断面図　（1／60）



第７図　３号竪穴平・断面図　（1／60）



第８図　１号Ｐｉｔ平・断面図（1／30）



第９図　１号土坑平・断面図（1／30）

＜1号Pit＞　（第8図）

調査区域西側に位置する。暗褐色土の落ち込みを確認し掘り下げる。大きさは直径80cm前後。平面形は不整円形。遺構確認面から底までの深さは15cm前後で、壁は外傾しながら立ち上がる。長さ20cm前後の石と坏が1点のみ出土した。

＜1号土坑＞　（第9図）

調査区域西側に位置する。暗褐色土の落ち込みを確認し掘り下げる。長辺1.9m、短辺1.6mの大きさで、平面形は不整の方形を呈する。遺構確認面から底までの深さは30cm前後で、壁は外傾しながら立ち上がる。掘り下げていくと水が湧き出てグチャグチャで、どんな遺構なのか判然とせず土坑とした。遺物の出土はない。

V　遺　　物

調査の結果出土した遺物は、古墳時代中期のもので、特に1号住居址からの出土が多い。

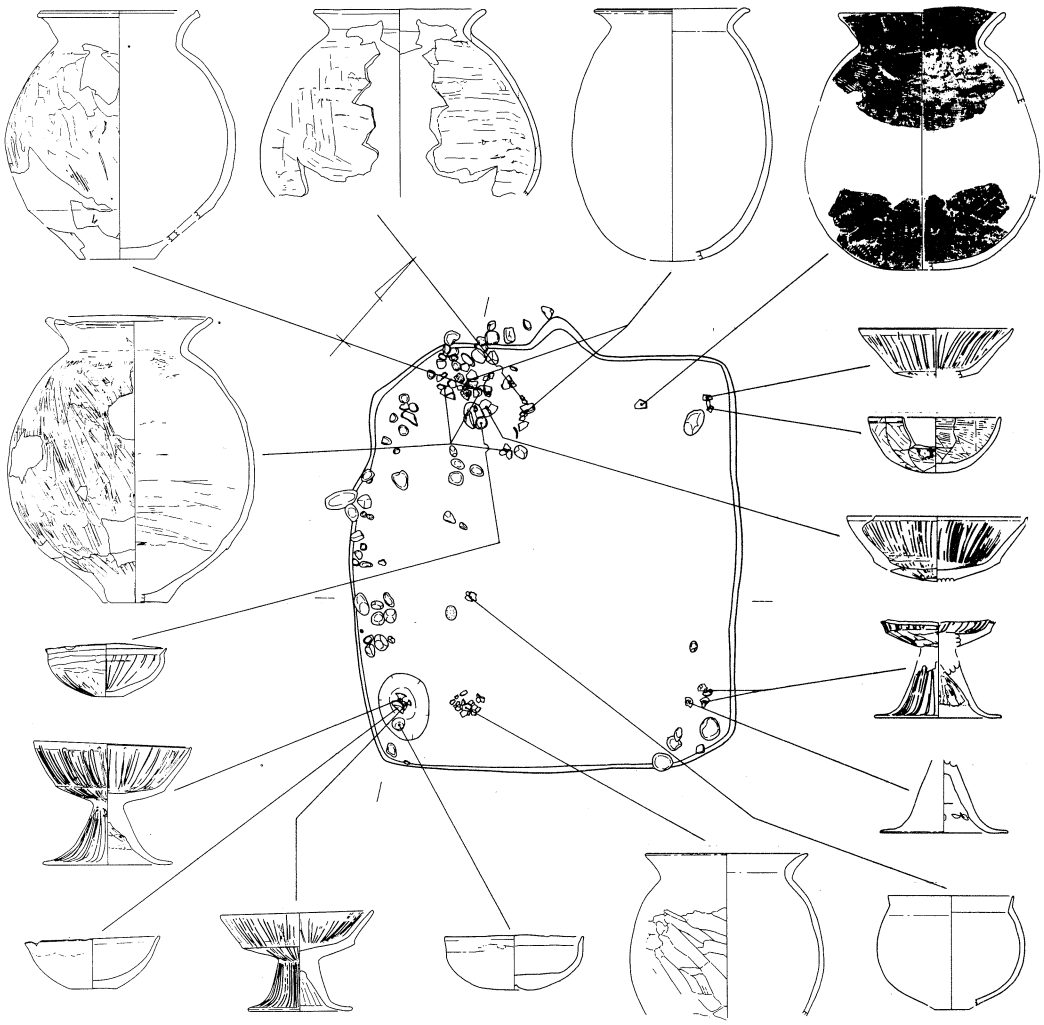
＜1号住居址出土遺物＞　（第10・11・12・13図）

住居址内の遺物は土器ばかりであった。出土状況は北西側に壺類、東側に椀・高坏、南側には椀・壺、南隅の穴からは椀・高坏などが出土しており、床面中央部分ではなく、四隅に分散している。床面と土器のあいだには若干の土の堆積がみられ、壺類の多い北西側はそれが顕著であり、東側のものは床面直上であった。

出土遺物一覧

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	椀	5.5, 12.6, 3.0	少量の金雲母と赤・白色粒子を含む	橙色 橙色、一部黒変	内面－放射状暗文 外面－体部ヘラ削りの後、磨き 口縁部横撫で ほぼ完形
2	土師器	椀	4.8, 12.8, 4.2	砂粒を含む	橙色 明褐色	内外面－ヘラ調整 破片
3	土師器	椀	5.2, 13.9, 4.9	赤色粒子と粗い白色粒子を含む	橙色	内面－雑な撫でが施される 外面－ヘラ削りがみられる 口縁部一部欠損
4	土師器	椀	5.7, 14.3, 5.8	赤・白色粒子を含む	にぶい橙色～灰褐色	内面－口縁部横撫で、暗文あるいは磨きがみられるが剥離により不鮮明 外面－口縁部横撫で、体部縦方向の撫で 底部が凹んでいる 煤けている 完形
5	土師器	椀	5.8, 13.7, 2.6	粗、雲母、砂礫を含む	にぶい褐色～灰褐色 にぶい橙色～橙色 一部黒変	内面－横方向の刷毛調整の後、撫で 外面－粗いヘラ撫で 一部黒く汚れている 2／5残
6	土師器	椀	5.6, 14.8, 4.8	赤・白色粒子を含む	橙色	内面－撫で 外面－撫での後、ヘラ削り 1／3残
7	土師器	椀	－, 16.2, －	砂粒を含む	橙色 黄橙色	内外共に撫で 破片
8	土師器	椀	5.8, 16.0, 4.2	砂粒を含む	にぶい橙色 一部黒変	内外面－撫で 体部～底部1／6残
9	土師器	椀	7.5, 12.3, 3.0	白色の目立つ砂粒を含む	灰褐色 褐色一部赤褐色	内面－刷毛目痕あり 外面－縦方向ヘラ削り、撫で、底部ヘラ削り 口縁部－内外面撫で 2／3残



第10図　1号住居址遺物出土状況

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
10	土師器	壺	29.5, 16.7, 6.8	雲母、砂粒を含む	にぶい橙色～黒褐色	口縁部－内外面撫で 体部内面－横方向撫で 外面－縦方向撫で 煤付着 3／4残
11	土師器	壺	26.2, 16.2, 7.8	砂粒を含む	にぶい褐色 灰褐色	内面－胴下部黒変 外面－胴部斜位の撫で 一部黒変 口縁部－内外面横撫で 4／5残
12	土師器	壺	－, 15.3, －	砂粒を含む	橙色～にぶい橙色 にぶい橙色～赤色	口縁部～頸部横撫で 胴部内面－横方向撫で 外面－縦方向撫で、輪積み痕もみられる 3／5残
13	土師器	壺	27.0, 17.0, 5.4	微量の金雲母と白・黒色粒子を含む	にぶい黄褐色	内外面共に口縁部横撫で 胴部－刷毛調整 1／5残
14	土師器	壺	18.0, 12.3, 5.2	密、細かい赤色粒子を少量含む	にぶい橙色	内面－横撫でがあるが剥離により不鮮明 外面－暗文がみられるが不鮮明 もろい 口縁部、胴部破片
15	土師器	壺	－, 16.8, －	砂粒を含む	黒褐色～暗赤褐色 黒褐色	外面－胴部縦斜め撫で 口縁部－内外面横撫で 2／3残

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
16	土師器	壺	－，13.7，－	砂粒を含む	褐色	内外面－横撫で、輪積み痕あり 口縁部破片
17	土師器	壺	－，15.0，－	雲母と砂粒を含む	にぶい黄橙色 暗黄褐色	内面－撫で、頸部に指頭痕がみられる 外面－口縁部横撫で 頸部縦方向の撫で 口縁部破片
18	土師器	壺	－，13.2，－	金雲母、砂粒を含む	にぶい褐色 褐灰色	内外面－撫で 内面－輪積み痕がみられる 口縁部破片
19	土師器	壺	－，17.7，－	砂礫を含む	にぶい橙色 灰褐色～褐灰色	内面－横撫で 外面－口縁部横撫で 胴部縦撫で 〃 下部ヘラ削り 輪積み痕がみられる 口縁部～胴上半部破片
20	土師器	小型壺	－，13.2，－	白色粒子・砂粒を含む	にぶい褐色 一部黒変	内面－横撫で 外面－木口状工具による撫で（軽い削り？） 底部ヘラ削り 1／3残
21	土師器	高坏	－，16.0，－	赤色粒子を含む	橙色	内外面－暗文あり 坏部破片
22	土師器	高坏	－，－，10.8	赤・白・黒色粒子を含む	にぶい橙色	脚部内面－ヘラ削り 外面－刷毛で横撫で後、暗文が施されている 脚部破片
23	土師器	高坏	12.7，16.4，13.6	赤色粒子と微量の金雲母、白色粒子を含む	橙色	坏部内面－暗文 外面－暗文 撫で整形の後、脚部は丁寧な磨き ほぼ完形（口縁一部欠損）
24	土師器	高坏	10.3，15.8，10.9	白色粒子を含む	橙色	内面－体部暗文、脚部ヘラ削り 外面－暗文あり ほぼ完形
25	土師器	高坏	－，15.8，－	白・赤色粒子を含む	橙色	内外面－暗文があるが磨滅により不鮮明 横撫で整形 破片
26	土師器	高坏	－，18.7，－	密、細かい赤・黒色粒子を含む	橙色	外面－一部煤けている 坏部内外面－放射状暗文あり 坏部破片
27	土師器	高坏	－，－，13.3	雲母、石英のまじる砂粒を含む	褐色 にぶい黄褐色	撫で整形の後、外面ヘラ磨き 坏部内面と外面に暗文あり 非常に脆い 脚部1／2、坏下部1／3残
28	土師器	高坏	－，－，13.4	金雲母と赤色粒子を少し含む	橙色 明褐色	内面－雑な削りが施されている 外面－撫で 脚部破片
29	土師器	高坏	－，14.4，－	白色粒子を含む	橙色	坏部内外面－暗文あり 坏部破片

＜2号住居址出土遺物＞　（第14図）

出土遺物一覧

（単位　cm）

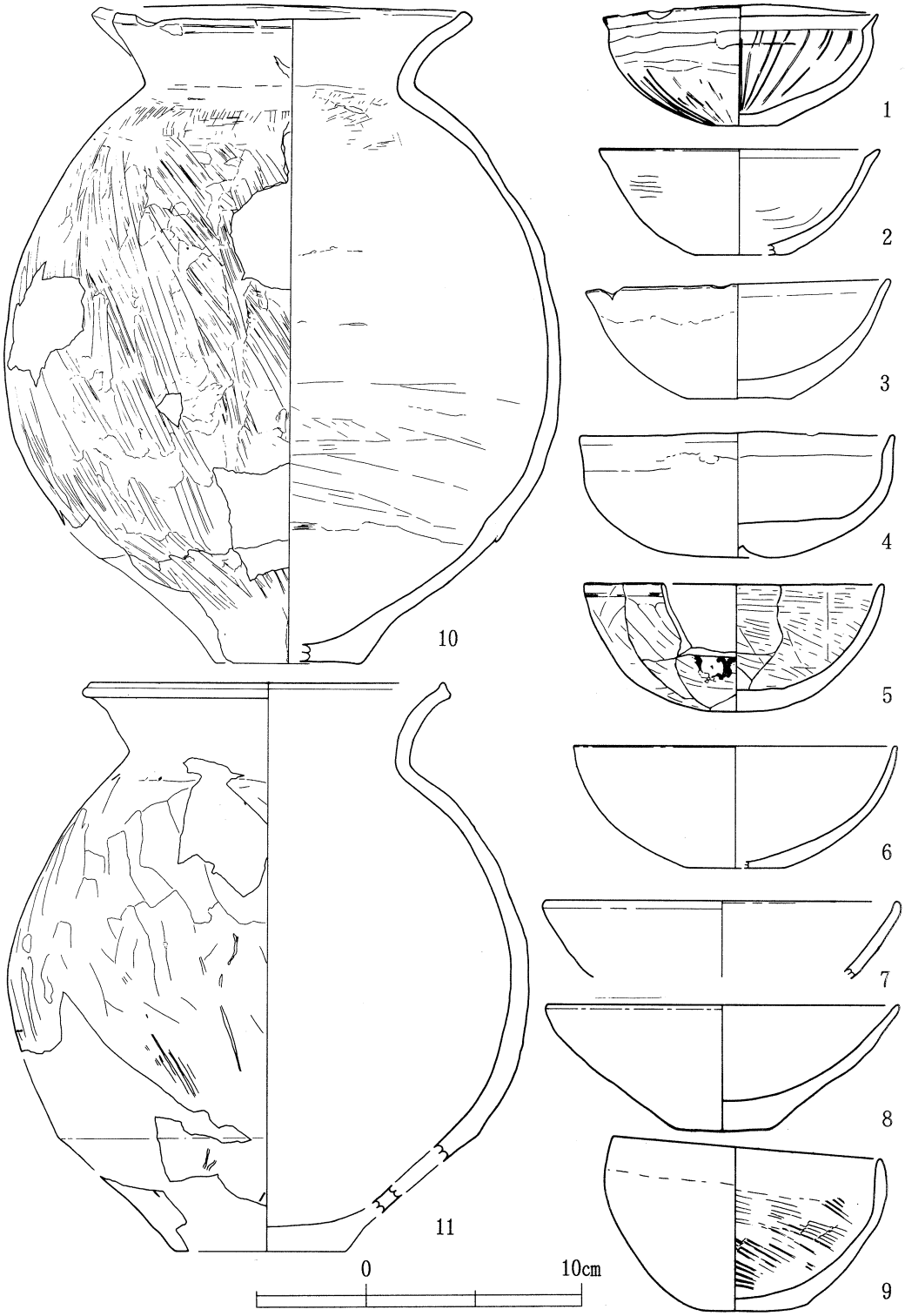
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	椀	6.5，14.1，5.0	細かい金雲母、赤・白・黒色粒子を少量含む	橙色 橙色、一部黄褐色	内面－撫での後、暗文が雑に入る 外面－ヘラ削りの後、暗文が雑に入る 1／2残

＜1号Ｐｉｔ出土遺物＞　（第15図）

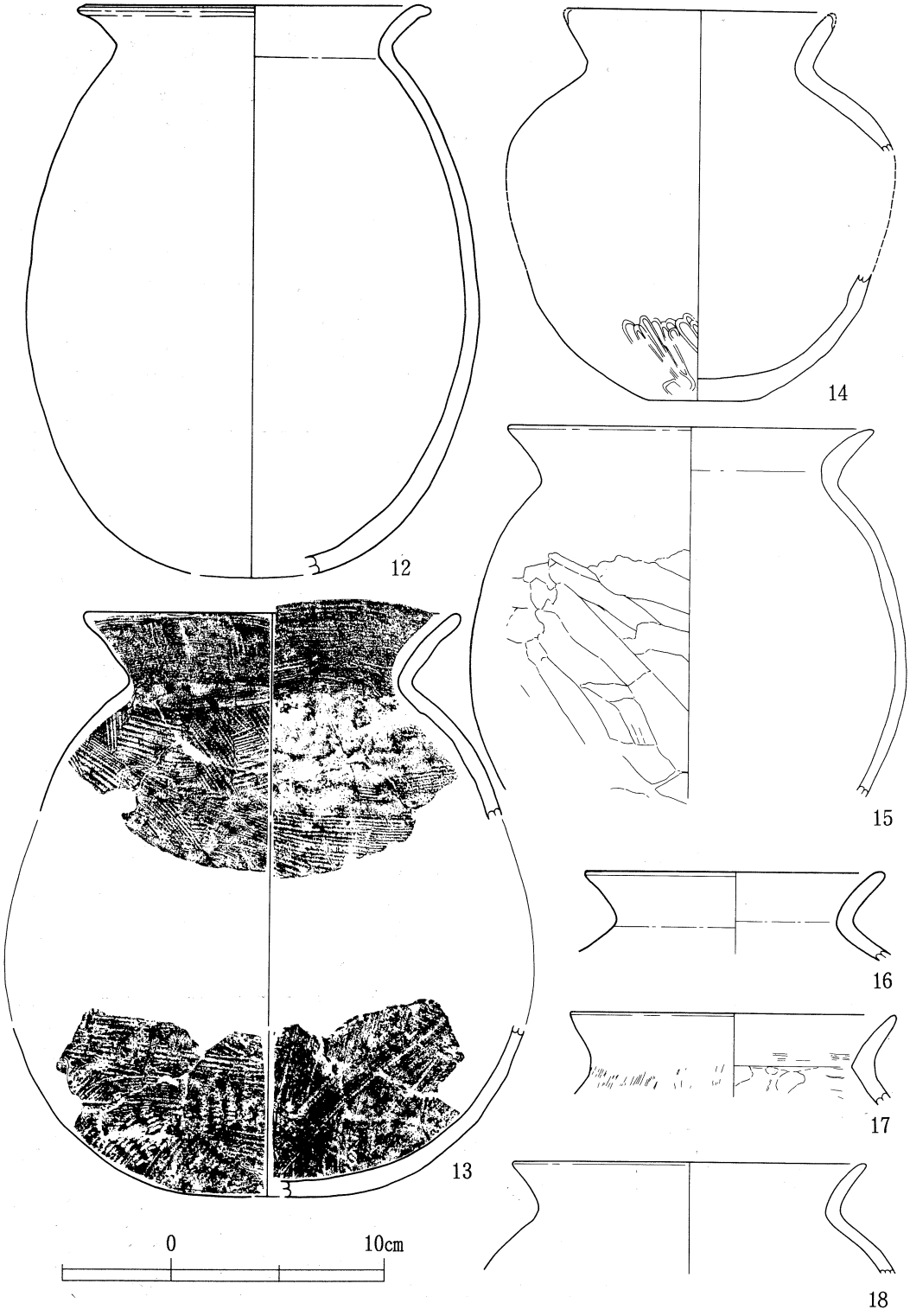
出土遺物一覧

（単位　cm）

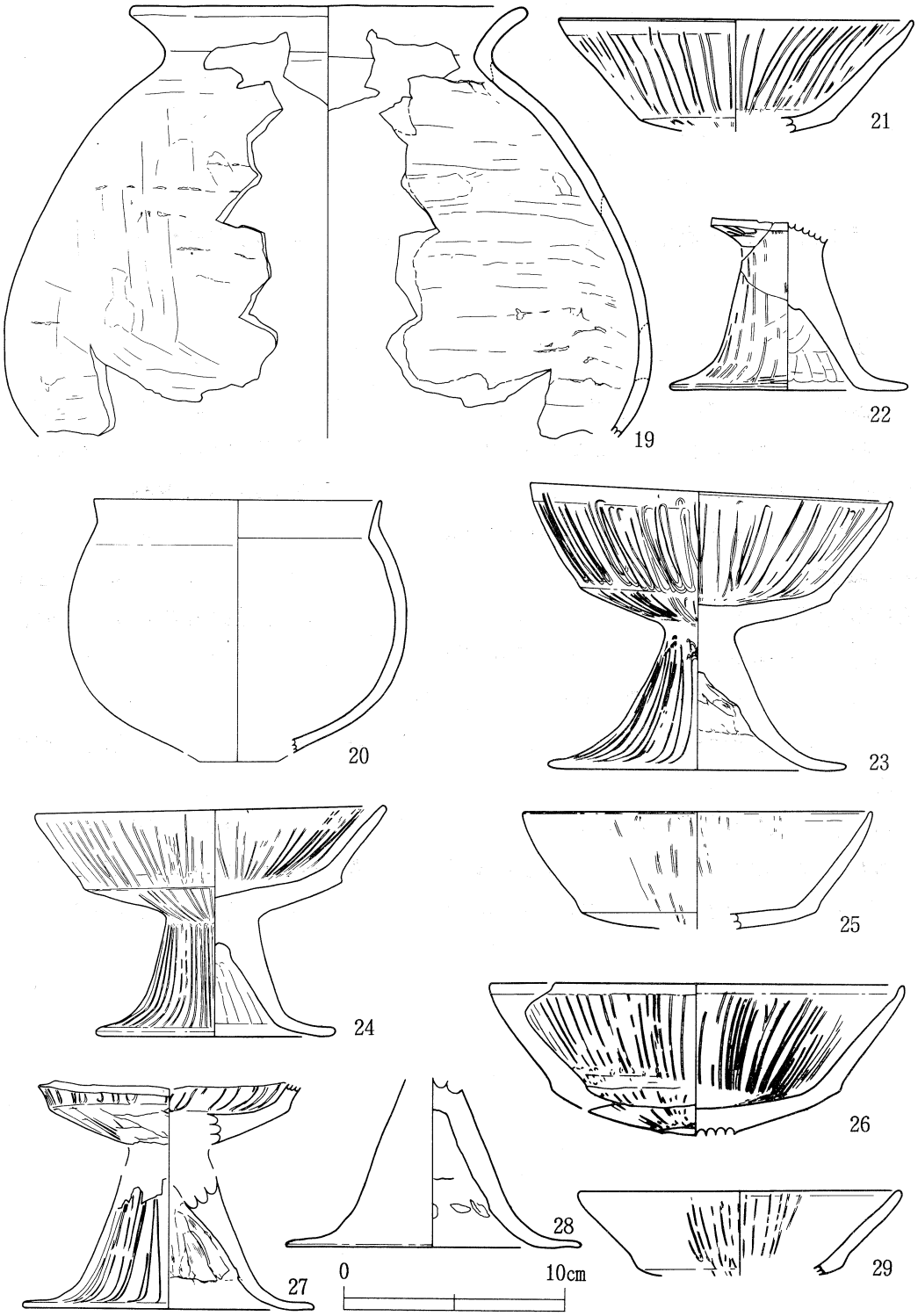
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	椀	7.0，12.7，5.5	大粒の砂礫、白色粒子を含む	橙色 にぶい橙色	内面－みこみ部放射状の撫で 外面－撫で、底部ヘラ削り 全体に歪みが激しい 口縁部は内外面横撫で 体部一部欠損



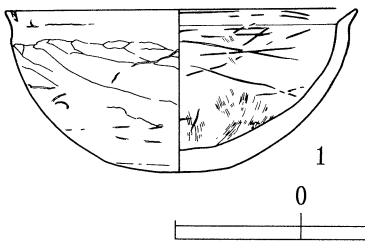
第11図　1号住居址出土遺物　(1／3)



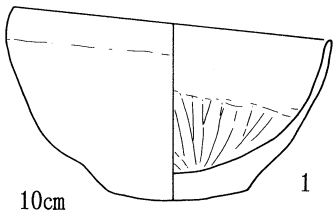
第12図　1号住居址出土遺物　(1／3)



第13図　1号住居址出土遺物　(1／3)



第14図　２号住居址出土遺物（1／3）



第15図　１号Ｐｉｔ出土遺物（1／3）

Ⅵ　ま　と　め

今回の調査は130㎡と比較的狭い面積にもかかわらず、前章まで見てきたように古墳時代の竪穴住居址と土坑などと、それらにともなう遺物が発見された。住居址は平面形態のわかるものは１号住居址１軒だけであった。１号住居址はカマドが無く、浅い竪穴ではあるが遺物の出土が豊富で、古墳時代中期の編年研究に良好な一括資料となり得るものであろう。２号住居址はその大部分が調査区域外にあり、また３号竪穴とした遺構は住居址の可能性もあり、当該地域には古墳時代中期の集落が営まれていたことが明瞭となった。その広がりは、調査区域東隣の水田の試掘調査では遺跡が確認されていないので、西側から北側にかけての微高地上に展開したものと思われる。当時の人々は、塩川の氾濫原において、微高地上を居住域とし、その周囲に広がる小河川・湿地を生産域（水田）として生活していたのであろう。狭い調査面積にもかかわらず遺構・遺物が確認されたことは、地域の歴史を考究するうえで重要な発見であったと言える。

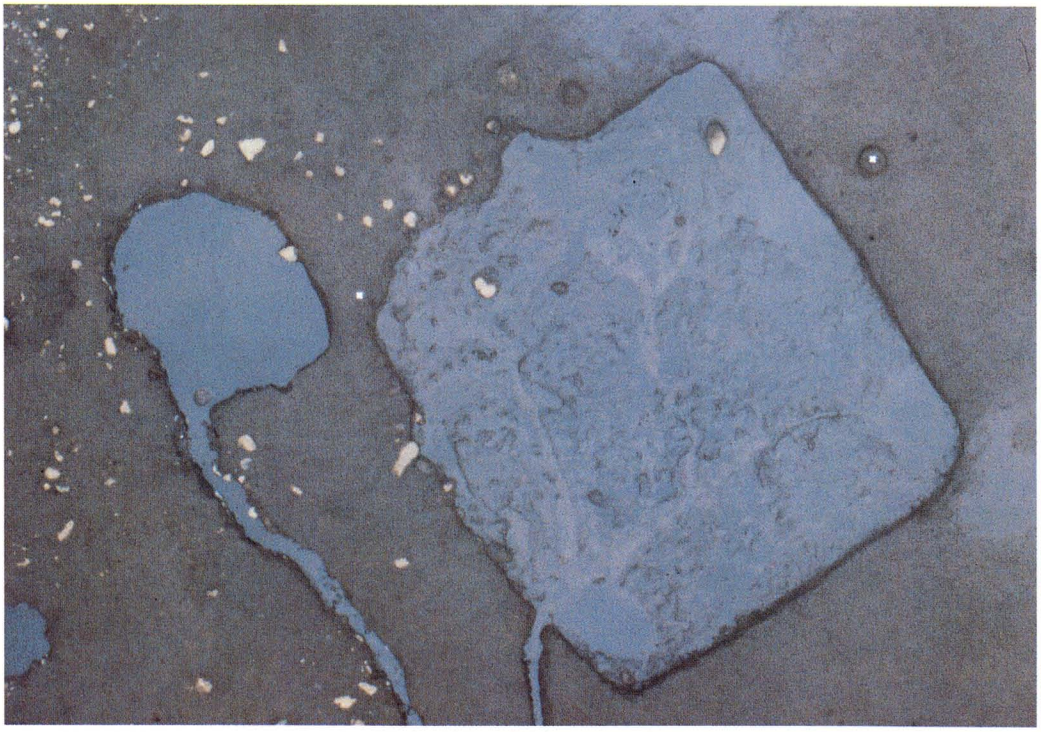
本報告は、限られた時間の中でまとめられたものであり、調査において発見された遺構と遺物を資料として掲載・提示したものにすぎない。調査成果や遺構と遺物の詳しい検討・考察が行われず、不充分なものである事は否めないが、本報告書が今後の調査や研究に資すれば幸である。

写　真　図　版

遺跡近景

作業風景

発掘風景



1号住居址

2号住居址

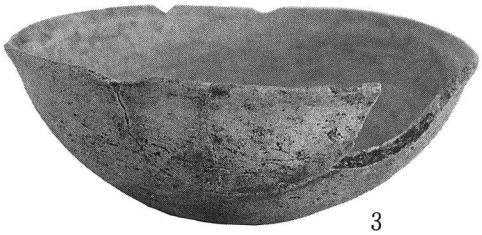
3号竪穴

1号Pit

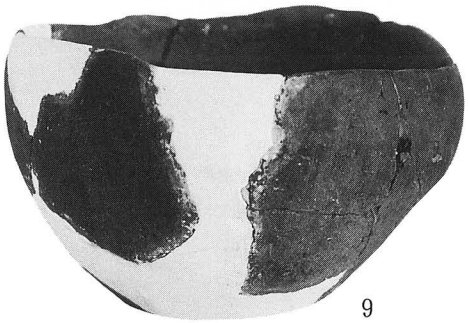
1号土坑

1

4



3



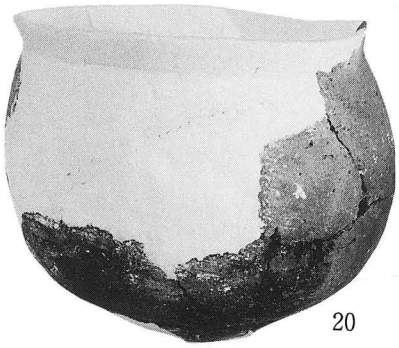
9

10

11

1号住居址出土遺物

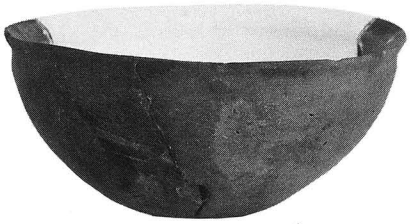
12


20

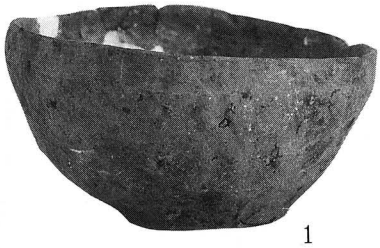
24

23

1号住居址出土遺物


1

2号住居址出土遺物


1

1号Pit出土遺物

枇杷塚遺跡

発行日　平成８年５月27日

発　行　韮崎市教育委員会
韮崎市遺跡調査会
〒407 山梨県韮崎市水神一丁目３－１
TEL 0551－22－1111㈹

印　刷　アートプリント社